



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## 尿路感染症

尿は、腎臓で作られ、尿管を通じて膀胱のためられ、ある程度の量がたまる。尿意をもよおし、尿道を通じて体外へ排出されます。尿路感染症はこの間のどこかに細菌やウイルスが感染して起こります。原因の病原体は細菌であることが多く、腸内細菌、特に大腸菌のことが多いようです。

基本的に、尿には細菌類がいませんが、尿道から侵入したり、血液を介して細菌やウイルスが腎臓に入ることがあります。ふつうは、細菌やウイルスが増殖する前に尿とともに排出されますが、尿意をがまんしたり、水分の補給が充分ではなかったりして、膀胱に尿がとどまっている時間が長くと増殖し症状が現れます。特に、夏期は発汗により水分が体から失われて、尿の産生量が少なくなり、膀胱に尿がとどまっている時間が長くな

ることがあるので、水分補給を十分おこない、尿の量を増やして排尿の回数を多くすることが必要です。

病原体の侵入経路は、尿道からのことが多く、女性の場合は男性に比べ尿道の長さが短いため、細菌などに侵入されやすく、感染をおこしやすいようです。男性の場合は尿道が長く、侵入される前に排尿で洗い流されることが多いようですが、尿道の途中に前立腺があり、そちらに感染することがあります。

症状は、腎臓や尿管に感染が起こっている場合は、発熱、腰の痛み、吐き気などがあり、膀胱や尿道に感染が起こっていると、排尿時に痛む、何回もトイレに行きたくなる、尿が濁る、残尿感などの症状が起こります。

治療は、細菌やウイルスを体外に排出してしまえばよいので、尿の量を増やし、排尿の回数を多くするために、水分を多く取ることです。原因が細菌の場合には、抗菌薬で治療

をおこなうと効果があります。抗菌薬を服用すると比較的早く自覚症状は取れますが、医師から指示された日数はきちんと服用してください。

途中で服用をやめると、生き残った細菌が再び増殖してしまい、症状がぶり返して治療が長引いてしまうことがあるので、最後まで服用を続けてください。また、前立腺に感染が起こった場合は、膀胱に比べて抗菌薬が届きにくいいため、治療に時間がかかることがあります。途中で治療をやめると、細菌が生き残り慢性化することもあります。この場合、膀胱と前立腺が近いいため、前立腺にいる細菌が容易に膀胱に入ることができるので、そこで増殖して発症し、治療をおこなうことで「再発」はよく

なります。しかし、薬の届きにくい前立腺には細菌が残り、再発を繰り返すことがあるので、初期の段階できちんと治療することが重要です。

(北区) 薬局エビラファーマシー

松本 博志